

# はじめに

情報処理センター所長 小津秀晴

情報処理センターの教育支援業務として情報処理教育、コンピュータを活用した教育あるいは学生の自主学習のため、情報処理機器の設置およびその管理を行ってきている。また、情報処理センター実習室でのマルチメディア機器の活用をサポートしている。一方、本学ではファカルティーデベロップメント(FD)への取り組みが行われつつあり、教育の更なる充実が進められようとしている。教育の充実には、全学、学部(学科・専攻)、各科目毎の教育目標達成に向け、各教員の教育内容・教育方法の工夫、教育力量の向上と共に、講義室・実習室のハード面における整備およびカリキュラム構成、授業に合った教室の配置・履修者数の割り当、授業支援等のソフト面での教育環境の充実が重要である。

各大学では、マルチメディア機器を利用した教育実践が行われており、教育の質的向上と教育機会の拡大がなされている。ビデオ、OHC等の教材提示機器の利用に加え、パソコンとの連携により、電子教材を利用した教材の提示、シミュレーションの実演、ネットワーク環境を利用した遠隔授業等が行われている。また、教材の電子化は、Webを利用したシラバスの公開、事前学習および事後学習のための資料公開、Web上でのQ & Aの利用等、更には教員間・大学間での教材の共有化も可能にしている。本学でも、複数の教員がマルチメディア機器を有効活用した教育を行っている。

教育目標を達成する上で、教室のハード面の整備も効果的な要素である。その一つとしてマルチメディア機器の整備が、教育方法の幅を広げることになる。本学では、大教室にパソコン・ネットワークと連動したのマルチメディア機器が整備されつつある。もちろん、科目によっては、教育目標達成のためには、マルチメディア機器の利用を必要としない科目も存在すると思う。しかしながら、マルチメディア機器の活用により、少なくとも視覚的理解、導入教育には明らかな学習効果を発揮できるものと期待できるなど、多様な教育方法を可能とすることになる。今後、他の教室でも使用状況に見合った形態のマルチメディア機器の整備が望まれる。そのためには、各教員の教育方法、特にマルチメディア機器を利用した教育に関し、教育目標達成の観点から学習効果の評価も含めた情報交換の場が必要になると思われる。その中で、今後の教育環境として各教室のハード面の整備に関する議論が深まることが期待される。

ソフト面では、カリキュラム構成や教学システムの改善に加え、教材・資料の電子化、授業での提示、Web上への公開等の活用方法・活用例の紹介と共に、教材準備を支援する